

第1回公立大学法人設立準備委員会 議事概要

1 日時 令和6年10月21日（月）13:30～14:15

2 場所 山形県庁 502 会議室

3 出席者

○ 委員

平山雅之県副知事（委員長）、岡本泰輔県総務部長、村山朋也県庄内総合支庁長
皆川治鶴岡市長、阿部誠三川町長、富樫透庄内町長、松永裕美遊佐町長
上野隆一学校法人東北公益文科大学理事、神田直弥東北公益文科大学学長
菅原司庄内広域行政組合事務局長（オブザーバー） ※矢口明子酒田市長は欠席

○ 事務局（県総務部高等教育政策・学事文書課東北公益文科大学公立化準備室）

五十嵐裕彦室長、佃吉彦室長補佐ほか

4 議事概要

◇ 副知事挨拶

- ・ 大変お忙しい中、公立化を進めるための第1回準備委員会に出席を賜り感謝申し上げます。
- ・ これまで幾度となく議論を重ね、8月8日に、県、関係市町、大学の三者で基本合意を結んだ。
- ・ 基本合意では、令和8年4月の公立化を目指すとともに、機能強化としては、地域課題を解決する人材、デジタル人材、国内外を開拓する人材の育成を目指して具体的な議論を進めていくこととした。
- ・ 併せて、関連予算を計上し、鶴岡市、酒田市からは職員を派遣いただき、県庁内に6名体制の準備室を設置したところであり、きちんと実務を進めていく。
- ・ 関係市町、大学と密接に連携しながら、本当にいい大学を作りたいと思っているので、忌憚の無い御意見を賜りながら進めていきたい。

◇ 協議

（1）公立大学法人設立準備委員会規約について

事務局から説明し、原案のとおり承認された。

（2）今後の進め方について

事務局から説明し、以下のとおり質疑応答、意見の表明があった。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ 説明内容について意見は無いが、議会議決について、基本合意まで、県と2市3町が歩調を合わせて各議会に説明したところであり、設立団体となる庄内広域行政組合の議会に対しても同様に説明する必要がある。

- ・ そのため、県、庄内広域行政組合、2市3町の7つの議会で、（執行部の法定協議会のように）協議会のようなものが必要かどうかを含め、検討いただきたい。

＜回答＞事務局 五十嵐室長

- ・ 執行部としては法定協議会を設置し、共同処理の一部として意思統一することを考えている。
- ・ それぞれの議会に対しては、共通の資料で歩調を揃えて説明していくことになると思っているが、頂いた意見について、どのような形で可能か、専門部会で話し合わせていただきたい。

【平山委員長（県副知事）】

- ・ 今回示されたスケジュールは大枠でしかないため、各市町等から議会への説明を考慮し、事務局には詳細な工程表を作って示してもらい、工程管理をきちっとしていただきたい。

【阿部委員（三川町長）】

- ・ 予算について、それぞれの団体からの負担金をもとに業務委託を行うということだが、3つの支援における専門的な部分を、1つのコンサル業者等が引き受けることは可能なのか。

＜回答＞事務局 五十嵐室長

- ・ 公立化に関する支援、機能強化に関する支援、PR業務と、専門性が強いので、それぞれ最適と思われる事業者を選定したい。

【富樫委員（庄内町長）】

- ・ 専門事業者への委託について、それぞれの専門性を優先するのは理解できるが、ベクトルが違う方向にいかないよう、全体のバランスをマネジメントしてほしい。

＜回答＞事務局 五十嵐室長

- ・ 準備室としてきちんと全体を見ながら、全体最適になるよう進めていきたい。

【松永委員（遊佐町長）】

- ・ 町として議会への説明をするに当たって、余裕を持って対応できるようお願いしたい。

【平山委員長（県副知事）】

- ・ 市町、広域行政組合、県それぞれの議会があるため、詳細な工程表を作成すると相当の手続き等があると思うが、決めるべき時に決められるよう、事務局には、ある程度先を見越して、優先順位を付けて準備を進めてもらいたい。
- ・ 資料2-1から2-3について、事務局案のとおりでよろしいか。

（異議なく、原案のとおり承認された。）

（３）その他

【平山委員長（県副知事）】

- ・ 第1回の会議であるので、今後の公立化・機能強化に向け、委員から御意見ををお願いしたい。

【皆川委員（鶴岡市長）】

- ・ まず初めに、本日第1回設立準備委員会を迎えることができ、知事、副知事、御臨席の皆様に感謝申し上げます。
- ・ 令和8年4月の公立化を目指し、短期間での準備となるため、さらに団結して進めていくことが重要。
- ・ 少子化が急速に進む中、公立化に当たっては、全国から多くの学生が集えるよう、魅力ある大学、大学院にしていくことが重要。
- ・ そのためにも機能強化が重要であり、大学関係者や専門的知見を持つ有識者から助言を頂きながら議論が本格化していくと思うので、鶴岡市としても積極的に議論に参加してまいりたい。
- ・ その際、専門的な知見が必要となるため、誰が中心になってまとめていくかも重要であり、留意して進めていただきたい。

【阿部委員（三川町）】

- ・ 鶴岡市、酒田市の職員の派遣を受けて県に準備室ができ、本日、公立大学法人設立準備委員会が開催されたことに感謝。
- ・ 全国的に少子化が進む中で、大学の経営には公立化が必要だということで準備が進められているものと認識している。
- ・ 公立化すれば、そこから10年くらいは、競争倍率、偏差値、定員確保ができるかもしれないが、将来的な少子化に対応するため、若い世代に地元に着してもらえるよう、機能強化が当然求められると思う。
- ・ 公益大は、庄内地域の大学としての期待もあるわけだが、卒業生の地元定着という点では、庄内地域だけでなく、県内全体に定着するよう、準備を進めることが重要。
- ・ 公立化に当たっては、将来的なビジョンをしっかりと示して進めていただきたい。

【富樫委員（庄内町長）】

- ・ これまで県と2市3町による会議が多かったが、今回、大学から神田学長、上野理事に出席いただき、県からは庄内総合支庁長、総務部長、広域行政組合の菅原事務局長も含めて関係者が揃って、第1回公立大学法人設立準備委員会が開催され、職員派遣を含めて御尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。
- ・ 令和8年4月の公立化を目指すというスケジュールの中で、それぞれの議会も含めて、県民、市民、町民にしっかりと理解していただけるような新しい大学をつくる上で、より強みを生かす独自性と、これを学びたいからこの大学を選ぶと言われるような先進性が必要であり、それが機能強化の検討につながっている。

- ・ 山形市には山形大学、芸工大があり、最上には専門職大学ができたので、それぞれの風土の特色をしっかりと生かした大学づくりを検討していただくとともに、北海道から沖縄まで全都道府県からうちの大学に来ていただき、あの先生の授業で学びたいと言われるような先生、教科、カリキュラム、その汎用性が必要だと思う。
- ・ 限られた時間の中で最大のパフォーマンスが発揮できるように、我々も一緒になって頑張っていきたい。

【松永委員（遊佐町長）】

- ・ 第1回公立大学法人設立準備委員会の開催に当たり、ここまでには、知事、副知事をはじめ皆様のたくさんの御協力があったと感謝している。
- ・ 鶴岡市長、三川町長、庄内町長がおっしゃったことはそのとおりであり、自分が17歳、18歳だったらどんな大学に入りたいか、どんなことを学びたいか、どんな未来を作りたいかに視点を置いて、このプロジェクトを成功させていただけたらと思う。

【上野委員（学校法人東北公益文科大学理事）】

- ・ 庄内地域は、これからもどんどん人口が減少する確率が高いと思っていたが、歯止めをかける1つの手立てとして、大学の公立化によって運営基盤が強化され、次代を担う若者の育成が大きな力となって前進することは、地域として大変望ましいことだと思う。
- ・ 少子高齢化もあって、残念ながらここ2年、定員割れとなっているが、公立化によって大学のステータスが高まり、さらに学費の軽減が期待されれば、入学者の増加も見込まれると思う。
- ・ 公益大は、地域との関係が非常に深い大学だと思っており、公立化を契機にさらにこの特徴を磨き、地域との共生で存在意義を高めることになると思う。
- ・ 機能強化の3つの視点の中で、私は特に、起業をベースにした地域活性化を重視しなければならないと思う。新田理事長をはじめ、起業家が地域社会に及ぼす影響は非常に大きいと考えており、大学の起業教育をどう盛り込んでいけるか、大きな地域課題でもあると考えている。
- ・ もう1つ、国際学部の設立に関連し、最近では、自ら進んで海外に移住したり、真剣に海外のことを勉強したりする若者が減り、内向きになっていると感じている。反対に、海外の人が日本の文化をどう学んでいけるか、国際人の養成を行うべきと考えており、外国人の入学を進めるのが重要と思う。
- ・ 起業、国際もそうだが、学部と大学院とで一貫した教育システムで連携が図られればいい。
- ・ 他の大学には無い個性を発揮して、素晴らしい経営者と人間的素養を深め、地域再生の一助となるような大学となることを期待している。

【神田委員（東北公益文科大学学長）】

- ・ 2001年に、21世紀に作られる新しい大学、その名のとおり公益を冠する全国で1つだけの大学として開学した。
- ・ 開学当初は入学者が多かったが、その後減少した時期には、大学で何を学んでいるかわからないと言われることもあった。昨今では、持続可能性やウェルビーイングなど、本学が開学以来主張してきたことが重視される社会になり、公益の重要性がますます高まってきていると認識している。
- ・ 目先の話だけでなく、10年後もそれ以降も、大学、地域両方の持続可能性を見据え、魅力ある大学づくりを通して地域の活性化に取り組んでいく。
- ・ こうしたことを、まさに大学、地域、県が一体となって進めていくことができる環境が整ったことに、大変嬉しく、ありがたく思っている。
- ・ 開学以来の実績を踏まえた上で、さらに魅力を向上していくためにどのようなことができるか、委員会、専門部会でしっかり議論しながら、公立化に向けて取り組んでまいりたい。

【平山委員長（県副知事）】

- ・ 庄内地域のみならず、山形県にとって有為な人材を輩出する大学となるよう、皆様にはその意識を共有いただきながらいい大学を作っていきたい。
- ・ この大学に入ってこようとする学生にとっての魅力の1つとして、この場所に来れば素晴らしい経営者の話を目の前で聞くことができたり、国際感覚を身に付けたりすることができる、色々な可能性のある若者を輩出するという意味で、具体的な機能強化をどのようにしていくか、皆様と一緒に考えていきたい。
- ・ 事務局には、とにかく課題を抽出してマトリクス化して、段取りよく詳細な工程表を作って、みんなで一生懸命議論していただきたい。
- ・ そして、ある程度決まった情報は、逐次2市3町、大学等に情報を開示しながら、大きな課題についてはいつでも皆様と議論させていただくつもりであり、なるべく余裕を持って御相談させていただく。
- ・ 全国から素晴らしい学生を集め、山形県を、庄内地域をどんどん牽引するような人材を輩出できる、魅力ある大学を作っていきたい。
- ・ 皆様から忌憚りの無い御意見を賜りながら進めさせていただきたいので、今後ともよろしくお願いしたい。

【欠席の矢口委員（酒田市長）から寄せられたコメント】

- ・ 東北公益文科大学公立化準備室の設置及び公立大学法人設立準備委員会の開催に感謝申し上げます。
- ・ 公益大は、「他大学にはない全国唯一の学部でなければ21世紀の少子化の時代に学生を集めることはできない」という考えに基づき、2001年の開学当初から「公益学部」を設置した。
- ・ 今、SDGsが叫ばれるようになり、時代が、そして世界が東北公益文科大学の開学理念に近づいてきている。時代を先取りした開学理念である「公益」という考え方を大事にしながら、全国唯一の大学を育てていきたい。

以上